

# 老津小学校の ESD 活動

## <活動の概要>

- ・本校は、地域や社会の様々な問題をとらえ、「人とのつながり」と「体験・本物」をもとにした ESD の実践を通して、考える力の育成を目標とした活動を展開している。
- ・具体的には、「地域を愛する心」、「地域の歴史と文化」、「地域の未来と自分の未来」を柱に取り組んだ。

## ・活動の実際

### ①地域を見つめなおす（3年・5年）

3年生は、老津消防団を招き、消防団の仕事について話を聞いたり、消火器の扱い方を教わったりして消防団の役割について学んだ。さらに、消防団は地



放水体験をする

域の見守りを行う「地域のヒーロー」であることを知った。多くの子が消防団にあこがれや感謝の気持ちをもちつつ、消防団員の大変さや必要性を本音で語り

合った。そして、消防団の存続に向け、自分たちにできることはないかと考え、動き出した。

5年生は、校区にある食品会社が力を入れているSDGsの取り組みについて学んだ。老津校区はキャベツ畑が広がっており、そのキャベツの規格外品を仕入れていることや、豊橋産のトマトや鶏肉、ウズラ卵を使ったカレーを開発したことを学んだ。SDGsの様々な取り組みから“地産地消”“環境保全”の実際に触れた。



SDGsについて学ぶ

### ②歴史から学ぶ（4年）

社会科の「郷土の発展につくす」という単元をESDの視点で捉え、4年生は「先人の苦労と努力を未来につなげる」総合的な学習に取り組んだ。かつて漁業が盛んだった老津が、どうして現在のような農業が盛んな地域へと変化してきたのか、昔の地図や郷土史から疑問に思ったことを調べ、さらには地域の古老から話を聞き、追究していった。そして、自分たちが調べてわかったことを下級生に向けて発信した。その締めくくりには、漁業から農業に切り替える際の苦労に思いをはせ、あきらめずに努力し続けたことに敬意をはらい、今後もこのことを語り継いでいきたいとの思いをもった。



昔、海だったところを見に行く

### ③平和の尊さを学ぶ（6年）

6年生は、社会の太平洋戦争の学習で、豊橋も空襲の被害を受けたことを学んだ。さらに、総合的な学習では地域の近くでも渥美線電車機銃掃射事件という惨劇があったことを知り、どのような被害があったのかを証言集をもとに調べ、学習を進めていった。被害者の遺族や語り部の話を聞いたり、事件のあった現場へ出かけたりした。これらの学習を通して、感じた戦争の悲惨さや戦争のない日本を未来につないでいくために、自分たちにできることについて考えを深めた。



慰霊碑のそばで話を聞く